S4-2

遷延性意識障害患者の栄養管理の現状と課題

木沢記念病院　中部療護センター　看護部
○吉村　千加子、中村　美津、石山　光枝、篠田　淳、奥村　歩

１．目的　近年、合併症の予防や疾病の早期回復のための栄養管理が重要といわれている。当センターは、交通外傷による頭部外傷後の遷延性意識障害患者を対象とした入院施設である。一般に慢性期に入った脳神経疾患患者の必要エネルギー量は、廃用性の筋萎縮による体重減少もあり、800～1200kcal/kg/日程度の投与で十分であるといわれている。しかし、入院時栄養評価を実施すると標準体重を大きく下回っている患者が多い。今回、遷延性意識障害患者の栄養状態について調査したので報告する。２．方法期間：平成14年9月～平成16年6月対象：当センター入院患者36名調査方法：以下の項目を入院時に調査する。身長、体重、BMI、ハリス・ベネディクト式による基礎代謝量、必要カロリー量、アルブミン値。３．結果　入院時のBMIの平均は16.1、最低は12、アルブミン値は3.3～4.9g/dl　平均4.0g/dlであった。入院後、活動係数、ストレス係数から必要カロリーを求め、栄養管理を進めたところ、現在はBMIが平均17.9まで改善が認められた。４．考察及び結論　遷延性意識障害に陥る患者は、急性期に脳圧亢進など重度の意識障害を伴っている。呼吸障害、高体温など消耗が激しく必要カロリーが不足することが多い。慢性期になっても体重の補正がされることなく経過しているのが現状である。また、遷延性意識障害患者は四肢麻痺で全面介助を要する者がほとんどであり、介護する者の負担を軽減するといった観念が強く、カロリーを押さえ気味に投与されていると思われる。しかし、長期臥床による合併症の予防には適切な栄養管理が必要である。